

平成31年3月14日

農 林 水 産 部

第58回全国青年農業者会議プロジェクト発表の 市長報告について

概要

2月26日・27日に東京都で開催された第58回全国青年農業者会議に九州沖縄ブロック代表として出場し、日頃の活動成果を発表するプロジェクト発表の園芸・特産作物部門で最優秀賞となる農林水産大臣賞を受賞した唐津市浜玉町の上野勉さんが市長へ受賞の報告をされます。

1 日 時

平成31年3月20日（水曜日）午後5時00分から

2 場 所

唐津市役所 秘書課応接室

3 報告者

- ・上野 勉（うえの つとむ）氏
（株）KARATSUTACHIBANA 代表取締役
- ・全国大会最優秀賞（農林水産大臣賞）受賞

4 対応者

唐津市長、農林水産部長、農政課長

5 その他

- ・佐賀県（5課題）代表として九州沖縄ブロック大会へ出場
- ・九州沖縄ブロック（園芸・特産作物部門10課題）代表として全国大会へ出場

第58回全国青年農業者会議（プロジェクト発表）

- ・園芸・特産作物部門6課題、畜産経営部門3課題、土地利用型作物部門4課題、地域活動部門6課題（各部門で最優秀賞あり）
- ・唐津・東松浦4Hクラブとしては、平成18年度、平成20年度に続く3人目の農林水産大臣賞受賞

（本件の問い合わせ先）
農林水産部 農政課
担当：岩野
電話：直通 72-9128（内線 2412）

1 第58回全国青年農業者会議

(1) 開催日

平成31年2月26日（火）～2月27日（水）

(2) 場所

東京都内

(3) 内容

青年農業者が日頃の活動成果を発表する「プロジェクト発表」と、自らの体験を通じて日頃考えていることを発表する「意見発表」が行われる。

全国の都道府県段階の大会で審査を行い、地区ブロックへ出場した者のうち、上位入賞者が全国大会へ出場するもの。

今回の全国大会におけるプロジェクト発表では、園芸・特産作物部門6課題、畜産経営部門3課題、土地利用型作物部門4課題、地域活動部門6課題の計19課題が発表され、各部門において最優秀賞となる農林水産大臣賞の他、農林水産省経営局長賞、全国農業青年クラブ連絡協議会長賞が授与された。

このうち、園芸・特産作物部門において、唐津市浜玉町で主にハウスみかん栽培を行っている上野勉氏が、全国でも先がけて永年作物である果樹への環境制御技術の導入に取り組み、収量・収益の増加を達成し、地域内外へその技術を広めている点を評価され、最優秀賞となる農林水産大臣賞を受賞。

2 過去の農林水産大臣賞受賞者（唐津・東松浦4Hクラブ所属）

平成18年 宮原 和史氏（唐津市厳木町・施設花き）

平成20年 岡本 謙太郎氏（唐津市七山・施設野菜）

全国青年農業者会議「プロジェクト発表」要旨

課題名	「ハウスみかん産地をUENOステージへ ～ハウス内環境の改善による収益性の増加～」		申込 部門	
(ふりがな) 氏名	うえの つとむ 上野 勉	年齢(29)	県名	佐賀県
住所	佐賀県唐津市浜玉町南山			

1. 経営概況

経営の特色・理念	雇用を取り入れ、カンキツの周年出荷を行っている。現状にとらわれず、日々変化と進化を目指しながら経営に取り組んでいる。			
労働力	経営規模			
家族:3名 雇用:1名 臨時:430名(のべ)	経営土地 区分	面積	主幹作目 区分	規模
	施設	274a	ハウスみかん	50a
流通形態	露地	56a	ハウスレモン	15a
系統出荷			ハウス中晩柑	209a
			露地中晩柑	56a
				主要施設・機械 硬質フィルムハウス 選果機

2. 課題設定の理由と目標

課題を取り上げた理由
<ul style="list-style-type: none"> ・祖父が品種育成した「上野早生」は、佐賀県のハウスみかんの主要品種。もう一つの主要品種「宮川早生」より早期出荷が可能で単価は高いが、収量は低い。 ・祖父の想いを継ぎ、「上野早生」の収量・収益を増加させ、産地を活性化させたい。 ・ハウスみかんでは導入例のない環境制御技術に取組み、「上野早生」の収量・収益の増加を目指す。
目標
<ul style="list-style-type: none"> ・「上野早生」の収量を「宮川早生」の管内の平均収量(6.0t/10a)以上にする。 ・収益を経営面積1ha当たり1,000万円以上増加させる。 ・ハウスみかん、中晩柑の環境制御技術を地域に普及させる。

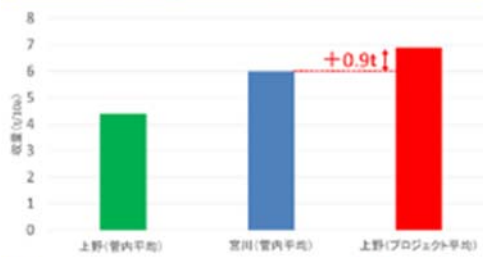
3. プロジェクトの内容

<p>(1) 課題解決のための具体的計画・手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術によるハウス内環境の改善 ・研修会等の開催による環境制御技術の普及 <p>(2) 活動の経過</p> <p>ハウス内環境の把握と改善策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境測定装置を導入し、ハウス内環境を見える化。 ・慣行施用ではハウス内の日中CO₂濃度が外気より低いこと、内張カーテンにより光が遮られていたことに気づいた。 <p>増収対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO₂の日中施用によるハウス内のCO₂濃度の改善(500ppmを確保)。(1年目) ・朝の内張カーテン開放時間を早めることで、ハウス内の光量を改善。(2年目) ・結実数を大幅に増やし、毎朝5時の生育調査により果実の肥大促進効果を確認。 <p>地域への普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会・部会で技術を紹介。 ・仲間との環境・生育データの共有。 	<p>— 新技术(日中施用) — 慣行(無施用)</p> <p>図 日中施用によるCO₂濃度の改善</p> <p>仲間との生育調査</p>
--	--

(3) 成果及び考察

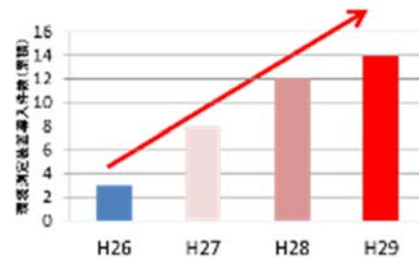
- ・地域で初めてハウスみかんのハウス内環境を「見える化」し、自ら改善策を考案した。
- ・その結果、プロジェクト前の収量は5.0 t/10aだったが、1年目は6.7t/10a、2年目は7.2 t/10aに増加、3年目は6.9 t/10aとなり、隔年結果することなく高収量を維持できた。目標である「宮川早生」の管内平均収量（6.0t/10a）を上回った！
- ・収益は、プロジェクト前と比較して経営面積1ha当たり1,300万円増加した。目標である1ha当たり1,000万円以上増加を達成した！
- ・4 Hクラブでの研修会の開催や、JAからつのハウスみかん部会に活動の成果を伝えたことで、環境制御技術が普及した。
(JAからつハウスみかん部会の環境測定装置導入件数(累積：H26年3戸 H29年14戸))

成果① 収量の増加



🍊宮川(管内平均)の収量より約1t多い

成果② 地域への普及



🍊部会で技術を導入する人が増加！

4. 収支実績を考慮した実効性の検討

- ・CO₂施用等に係る経費が10a当たり58万円増加したが、収量の大幅な増加により、収益は132万円増加した。

項目	プロジェクト前	プロジェクト後
経費(万円)	215	273 (+58万円)
収益(万円)	285	417 (+132万円)

5. 活動の評価・反省

- ・「上野早生」の収量を6.0t/10a以上、収益を1,000万円/1ha以上増加させることができた。
- ・JAからつハウスみかん部会において、意見交換が活発に行われ、環境制御技術に取り組む農家が増えた。
- ・経費削減の視点だけでなく、収益を最大にするために収益差を考慮した設備投資が重要であることがわかった。
- ・現代農業で連載され、全国から視察が相次いでおり、地域内外から高い評価を受けた。



現代農業 (H29.12月号)

6. 残された今後の課題

- ・「上野早生」の糖度を向上させ、収量を増やす栽培技術の確立 (さらなるブランド力の強化)
- ・大学や試験場との連携による調査データの活用
- ・中山間地域などの不利地における雇用型農業経営の確立を目指す

7. プロジェクト発表時の使用機材

ノートパソコン、プロジェクター